

○ 草の根パートナー型

2015年度第2回 採択内定案件

I. 提案事業の概要	
1. 対象国名	バヌアツ共和国
2. 事業名	タンナ島における在来建設技術の高度化支援
3. 事業の背景と必要性	外来建設技術の導入により、在来建設技術が失われようとしている。それに伴い、固有の文化も失われつつある。しかも、外来建設技術の導入は、災害の低減につながっていない。そこで、在来建設技術が喪失する前に、その価値を再認識し、在来建設技術の高度化につなげることが必要である。
4. プロジェクト目標	タンナ島の中部の対象コミュニティ（Lowkahmal、Lamlu周辺）において、耐風性能が向上した在来住宅と、居住性・耐久性が向上したニ馬拉タンを持続的に建設できる環境が構築される。
5. 対象地域	タンナ島Lowkahmal、Lamlu周辺
6. 受益者層（ターゲットグループ）	タンナ島LowkahmalおよびLamlu周辺のコミュニティ住民（約200人）
7. 生み出すべきアウトプット及び活動	<p><アウトプット></p> <ol style="list-style-type: none"> それぞれの建設に関する基本設計とマニュアルが作成される。 RTC教官が上記マニュアルに従って、建設を指導できる能力を身につける。 資源の分布を表すマップが作成される。 コミュニティ内で資源管理のための仕組みが構築される。 <p><活動></p> <ol style="list-style-type: none"> 在来建築耐風性の問題点の特定、在来工法の優位性を説明する刊行物作成、2名のRTC教官向け研修、改良ニ馬拉タン・在来住宅基本設計の試行とそれらのサンプル建設、教育省および住民代表向け研修、住民向けワークショップ開催、RTCの授業に資する建設マニュアル作成など RTC教官の指導能力向上のための指導、RTC教官による教育活動のモニタリング結果による建設マニュアル修正など ニ馬拉タン及び在来住宅に必要な資源の種類、資源分布の調査、資源分布マップ作成 改良ニ馬拉タン及び在来住宅の耐用年数の特定、管理対象地域の選定、資源管理方法の決定、資源管理者の任命、資源管理マニュアル作成など
8. 実施期間	（西暦）2016年9月～2018年9月（2年0ヵ月）
9. 事業費概算額	43,942千円
10. 事業の実施体制	日本側：京都大学（防災研究所が主体）、日本バヌアツ親善協会 バヌアツ側：RTC（Rural Training Center）、教育省
II. 応募団体の概要	
1. 団体名	京都大学
2. 活動内容	高等教育・研究・アウトリーチ